

# 令和元年度 経済環境委員会 行政視察報告書

1. 視察日程 令和元年7月8日(月)～7月10日(水)

2. 視察先及び視察内容

- (1) 北海道紋別市役所 (スポーツツーリズムの取り組みについて)
- (2) 北海道北見市役所 ( 同 上 )
- (3) 北海道網走市役所 ( 同 上 )

3. 参加者

委員長 神野 義孝  
副委員長 杉山 護  
委員 勝亦 功 菅沼 芳徳 芹沢 修治  
辻川 公子  
事務局 藤曲 幸子 (議会事務局主任)

4. 視察先対応者

- (1) 北海道紋別市役所  
議会事務局・次長 細川 貴志  
教育委員会・教育部長 山崎 義一  
教育委員会・スポーツ振興課課長 田島 慎二
- (2) 北海道北見市  
市議会副議長 飯田 修司  
議会事務局 議事課 議事調査係 山口 高子  
教育委員会・社会教育部 スポーツ課 係長 細川 敏明  
教育委員会・社会教育部 スポーツ課 事業係 斉藤 正和  
NPO法人 北見市武道振興協会 理事長 佐藤 壽春
- (3) 北海道網走市  
市議会議長 井戸 達也  
議会事務局 次長 細川 英司  
教育委員会・社会教育部 次長 岩本 博隆

## 5. 視察内容

### ■紋別市議会『スポーツツーリズムの取り組みについて』

令和元年7月8日（月） 14:00～15:30 於：紋別市役所

#### ≪視察研修の目的≫

スポーツツーリズムの先進的な取り組みを学び、当市の振興策の参考とする。

#### ≪視察先の概要≫

- ・紋別市は、オホーツク海に面し、海岸線が伸び、山あり川ありでロケーションがよい。
- ・面積は831km<sup>2</sup>、人口21,750人(R1.6.30現在)
- ・冷涼な気候で、夏の最高気温は25℃
- ・オホーツク紋別空港があり、紋別～羽田間1時間45分。
- ・夏期は花観光や釣りクルーズ体験など、冬期は流氷観光などオホーツクの自然を利用した観光に力を注いでいる。

#### ≪視察内容≫

##### ◆スポーツツーリズムの位置付け

- ・現市長が、平成17年にスポーツ合宿等を誘致、オホーツク観光の推進、都市間交流の促進、紋別情報の発信等を含む6つのプロジェクトを立ち上げた。

##### ◆スポーツ合宿

- ・陸上競技長距離、ハンドボール、バスケット、ラグビー、野球、ボクシング等
- ・合宿助成（30年度）：合宿団体補助金26団体約2,100万円、レンタカー・バス賃借料約520万円、個人：宿泊一般1人1泊2,000円、航空運賃1人往復2万円

##### ◆スポーツ合宿の経済効果（平成29年度実績）

- ・補助額2,019万円、レンタカー・バス賃借料：524.4万円
- ・経済効果約1億600万円
- ・その他、飲食等目に見えないものが5倍程度

##### ◆推進組織

- ・紋別市スポーツ合宿連絡協議会（事業運営、連携等）、運営主体は、体育協会
- ・市がスポーツツーリズムの推進主体（教育委員会スポーツ推進課）

◆施設

- ・市スポーツセンター、健康ウォルステア、市営陸上競技場、ホーツク流氷公園クロスカントリーコース（芝・2,700m）、管理は指定管理

◆誘致活動

- ・平成17年、交流拡大プロジェクトの実施項目に入ったことをきっかけに誘致に注力、当初は陸上競技長距離部門をターゲット
- ・団体の現地での準備関係のワンストップ窓口化（ホテル、市内移動手段、航空券）

◆近隣市町との連携

- ・完全に連携を図れている自治体はない。

◆その他

- ・市内を走るアスリート達の姿が夏の風物詩となり、街の活性化につながっている。
- ・合宿団体による実技教室（走り方教室等）を実施
- ・アイシングの氷の手配、海産物等食事が良い。
- ・交通量・信号が少なくロードレースの一定程度の距離を確保できる。（市内郊外に4コース）
- ・市による合宿スケジュール表の作成、合宿推移等の整備

《考察》

◆強いリーダーシップ

- ・市長の強いリーダーシップのもと、行政が本気で取り組んでいる。

◆誘致する重点合宿種目の明確化

- ・紋別市は、冷涼な気候と交通量・信号が少なくロードレースの一定程度の距離を確保できる陸上長距離、合宿の実績があるハンドボールなどを重点としている。御殿場市は、高い標高を生かした陸上長距離、恵まれた自然を生かした乗馬、盛んな土地柄を生かしたサッカー・空手を重点にスポーツ合宿を推進したい。

## ■北見市議会『スポーツツーリズムの取り組みについて』

令和元年7月9日（火） 13:30～16:00 於：北見市役所、東稜公園

### 《視察研修の目的》

スポーツツーリズムの先進的な取り組みを学び、当市の振興策の参考とする。

### 《視察先の概要》

- ・オホーツク海から大雪山まで東西に約110kmの豊かな自然環境があり、面積は、1427km<sup>2</sup>
- ・高い日照率、夜も涼しい冷涼な気候
- ・人口は、117,038人（R1.6.30現在）
- ・交通インフラは、・羽田～女満別空港1時間45分、空港～市内 車で40分
- ・観光は、四季を通じて様々なイベントが開催される。

### 《視察内容》

- ◆スポーツツーリズムの位置付け
  - ・昭和60年、明治大学ラグビー部の合宿がきっかけとなり、当時の市長が「北の菅平」を目指すと言
  - ・市地方創生総合戦略の主要事業に位置付け、行政が本気で取り組んでいる。
- ◆スポーツ合宿
  - ・数多くの体育施設を有効活用
  - ・長年担当してきたキーパーソンの存在
  - ・平成30年度受入実績：14種目、197チーム、4,125人
  - ・移動支援、利用料金補助、氷、栄養補給費、トレーニング機器用意
  - ・助成：社会人1人2,000円
  - ・食、温泉、気候、景観等副次的要素の充実
- ◆スポーツ合宿の経済効果（平成29年度実績）
  - ・合宿事業費3,050万円
  - ・経済効果約6億8,872万円(利用する体育施設維持管理費を含む)費用対効果206%)

#### ◆推進組織

- ・スポーツ合宿実行委員会が合宿の計画、運営、諸団体との連絡調整を実施
- ・合宿関係職員18名、窓口は、スポーツ課事業係（宿泊の斡旋はないが、旅館組合と連携）

#### ◆施設

- ・大型施設整備（スケートリンク、武道館、カーリングホール、温水プール等）
- ・東稜公園（3道場、弓道場、多目的道場、研修室、トレーニングルーム等）H25、約12億円
- ・ラグビー場（芝生）11、サッカー場9、体育館16、陸上競技場2、野球場13、テニスコート33（面数）、カーリング場1（通年6シート）、武道場3
- ・東稜公園・施設は指定管理（芝は直営管理）

#### ◆誘致活動

- ・栄養補給費と貸切バスの半額補助等、従来のチームへの継続要請（フォローアップ）
- ・合宿の里として34年間の蓄積と人のつながりを重視
- ・食や生活環境など練習環境の良さをPR

#### ◆近隣市町との連携

- ・網走市とラグビーフェスティバル、ラグビー受入れの情報交換

#### ◆その他

- ・合宿パンフレット・スポーツ合宿事業計画の作成
- ・市スポーツ合宿実行委員会（市内在住スポーツ団体関係者等）市長以下25名
- ・1チームの同一会場の貸し切り（負担の軽減）
- ・多項目通年化の取り組み
- ・来られなくなったチーム、新たなチームへのアプローチ
- ・合宿チームへの口頭、メール等でのヒアリング調査
- ・札幌ピック選手等が子ども達のための教室を開催

## 《考察》

#### ◆強いリーダーシップ

- ・市長が「北の菅平」を目指すと公言し、市地方創生総合戦力の主要事業に位置付けられ、行政が本気で取り組んでいる。

#### ◆全ての合宿事業関係者と連携

- ・スポーツ合宿実行委員会が合宿の計画、運営、諸団体との連絡調整を実施

#### ◆近隣市町との密接な連携

- ・定期的な情報交換により、試合・レフェリー等の連携ができる。

## ■網走市議会『スポーツツーリズムの取り組みについて』

令和元年7月10日（水） 9：30～11：00 於：網走トレーニングフィールド

### 《視察研修の目的》

スポーツツーリズムの先進的な取り組みを学び、当市の振興策の参考とする。

### 《視察先の概要》

- ・オホーツク海に面し、湖沼と丘陵が多い。面積は、471km<sup>2</sup>、網走国定公園があり、流氷観光が有名
- ・夏は晴れの日が多い。冷涼な気候で8月平均気温18.4℃（H29～30）
- ・人口は、35,230人（R1.4.30）
- ・羽田～女満別空港1時間45分、女満別空港～市内 車で30分

### 《視察内容》

- ◆スポーツツーリズムの位置付け
  - ・恵まれた自然環境と食を生かし、スポーツによるまちづくりを推進
  - ・オリンピック・パラリンピックのホストタウン
  - ・市長が明るいイメージ作りのためスポーツ合宿を推進
- ◆スポーツ合宿
  - ・長年担当のキーパーソンの存在（社会教育部次長 岩本博隆さん）
  - ・合宿（平成30年度）：8競技、62団体（ラグビー11、陸上競技45）、1,828人、延べ15,076泊
  - ・航空券・宿泊・レンタカーの斡旋・仲介、空港～ホテル、ホテル～練習会場送迎
  - ・練習会場使用料の免除、地場産品の差し入れ
  - ・イベント：ホリデイスタンスチャレンジ大会、関東学生網走夏季記録挑戦競技会、ホーツクラグビーフェスティバル等
- ◆スポーツ合宿の経済効果（平成30年度実績）
  - ・年度予算（市補助金）：950万円
  - ・経済効果約5億6,356.7万円

#### ◆推進組織

- ・社会教育部スポーツ課

#### ◆施設

- ・網走スポーツトレーニングフィールド（平成2年開設）、事業費36億円、用地面積38.7ha
- ・管理は指定管理年間1,500万円（芝生管理は別途委託）14haで約4,200万円）
- ・市総合体育館、市陸上競技場、市民健康プール・西地域プール、ランニングコース、市営野球場

#### ◆誘致活動

- ・各種大会に出向き、主要チームに合宿誘致活動
- ・国内の主要な大会における市長、教育長を交えた合宿誘致活動

#### ◆近隣市町との連携

- ・北見市など2市2町とラグビーのレフェリーの調整等良好な関係

#### ◆その他

- ・強化のための要望の受入れ
- ・民間事業者との連携はないが、要望を伝達
- ・宿、練習場がラグビー国内トップチームに支持（14/16チーム）、日本・フィジーチームのワールドカップ事前合宿
- ・連絡会として勉強会で情報交換
- ・指定管理でできない機微な要望対応、合宿実績の整備（時期、宿泊先等）
- ・有名なアスリートによる講習会を小中高等学校で開催

### 《考察》

#### ◆強いリーダーシップ

- ・市長が明るいイメージ作りのためスポーツ合宿を推進

#### ◆誘致する重点合宿種目の明確化

- ・ラグビー国内トップチームに支持（14/16チーム）、日本・フィジーチームのワールドカップ事前合宿（良好なグラウンド環境：芝生管理は委託14haで約4,200万円）
- ・陸上長距離：関東学生網走夏季記録挑戦競技会

#### ◆キーパーソンの育成

- ・毎年継続して誘致できるように、担当職員は専門職として十分な年数をかけて育成し、関係団体との良好な人間関係を構築させる。

#### ◆行政主導

- ・関係業界との連携強化、特に宿泊施設に対しては、食事や選手の休養や洗濯等の生活環境に配慮するよう指導を強化
- ・各チーム毎に合宿スケジュール管理を徹底し、練習会場やスペースを管理
- ・誘致活動は市が実施すると信頼感等から効果大きい。